

## 令和2年度 学校教育自己診断の結果のお知らせ

昨年末に子供たちをはじめ保護者の皆様方にご協力いただきました「学校教育自己診断」(学校アンケート)の結果をまとめました。この調査は毎年ほぼ同じ項目で実施しており、学校教育の活性化や改善の資料とさせていただきます。



### ～1・2年の児童のアンケートより～

1. アンケート項目全体を見ると、5項目中3項目が昨年度とほぼ同じ数値でした。
2. 昨年度より肯定的評価が高かった項目は、「授業でわからないことは先生に質問できる」でした。
3. 昨年度より肯定的評価が低かった項目は、「学校に行くのが楽しい」でした。

すべての項目で8割以上の肯定的な意見でした。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、6月から学校が再開されましたが、例年子どもたちが楽しみにしていた取り組みや行事が中止となり、友だちとの関わりも制限せざるを得ず、学校生活での楽しみも少なくなってしまうことが想像されます。学習も限られた時間の中で、例年よりもゆっくり時間をかけられない状況だからこそ、授業では安心して質問したり、わからないことを言えるような学級経営をより一層大切にしていきます。

### ～3年から6年までの児童のアンケートより～

1. アンケート項目全体を見ると、15項目中10項目が昨年度とほぼ同じ数値でした。
2. 昨年度より肯定的評価が高かった項目は「授業で自分の考えを発表することがある」「先生たちは学習で自分が頑張っている事を認めてくれている」「先生や友だちは自分のよいところを認めてくれている」「先生たちははじめなど、私たちが困っていることについて一緒に考えてくれる」「先生たちにいろいろなことを相談できる」でした。

例年、全体的に学校生活については肯定的意見が多く、教員との関係性や自尊感情にかかわる項目が低い傾向にありました。これは思春期に入る5・6年生で特にその傾向が強くなっていました。しかし、昨年度に引き続き今年度も「先生たちは学習で自分が頑張っている事を認めてくれている」「先生や友だちは自分のよいところを認めてくれている」など、自己肯定感にかかわる項目の肯定的意見の割合が上昇していました。昨年度から本格実施となった「特別な教科道徳」や日々の学習活動の中での人権教育の取り組みの成果だと考えています。これからも子どもたちが認められるような場面を多く設定できる取り組みを進めてまいります。

## ～保護者のみなさまのアンケートより～

○回収率は94.6%でした。ご協力をありがとうございました。

1. 肯定的評価が80%以上の項目は10項目中8項目でした。特に90%以上の高い評価の項目は、以下の項目でした。
  - ・「学校から家庭への連絡は学校便りや学年だより、HP、メール配信などを通じて適切に行われている」
  - ・「地震や台風などの場合の対応方法が、児童や保護者に知らされている」
2. 一番肯定的評価が低かった項目は、「学校は学習環境面で施設・設備を整えようとしている」でした。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者の方に学校を見ていただく機会が極端に減ってしまったため、回答しにくい項目もあったかと思いますが、たくさんのご協力ありがとうございました。昨年に引き続き、学習環境面での施設・設備に関しては、相対的に低い評価となりました。本校は歴史のある学校なので、施設・設備面の老朽化は確かに目立つため、細かい補修工事に関しては、今年度だけで約20件ほど市に要望し、対応していただいています。大規模な改修工事については予算も時間もかかるため、市が計画的に市内の公立学校の改修工事を進めているところです。昨年度のトイレ改修工事に続き、今年度末には特別教室すべてに空調設備（冷暖房）が設置予定です。また、来年度の6月～11月には体育館の大規模改修工事が予定されており、床や建具、照明、放送設備、外壁が新しく生まれ変わります。そして、令和4年度、5年度には校舎の大規模改修工事も予定されており、普通教室とわかば学級の教室のLED照明・ホワイトボードの設置、床・建具の改修、廊下・階段の床材張替え、外壁・屋上・放送設備の改修等で、校舎の雰囲気も大きく様変わりします。

さらに改修工事ではありませんが、先日子ども1人に1台のiPadも整いました。我々教職員も試行錯誤を繰り返しながら、ソフト面でもハード面でも子どもたちがより安全に、より快適に学べる環境を整えていきます。

## ～保護者のみなさまからのご意見より～

今年度も、保護者の方々からたくさんの貴重なご意見をいただきました。いただきましたご意見は、すべての教員が目を通し、今後の教育活動に役立ててまいります。ここでは紙面の都合上、主なご意見に対してお答えします。

Q (あゆみの) 各教科にある、「学習に進んで取り組む」の観点が曖昧すぎてわかりにくい。

A 今年度1学期の「あゆみの見方」にも記載しました通り、新学習指導要領の実施に伴い、本校のあゆみの観点も、今年度より変更しています。新学習指導要領では、どの教科も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点が整理されており、本校のあゆみの観点も、「わかる・できる」「考える・判断する・表す」「取り組む」等の文言で示しています。「学習に進んで取り組む」の観点はペーパーテスト等で点数化できないため曖昧に感じられますが、ノートやワークシートの振り返りの記述や授業中の発言、行動観察や自主学習等での既習内容の深まりや日常生活への広がりを総合的に評価しています。

各学級、あゆみ返却の際は、「あゆみの見方」とともに担任からより丁寧な説明を心がけるようにしますが、ご不明な点がありましたら担任までお問い合わせください。

(裏面に続く)

ちなみに本校のあゆみは「できた」と「もう少しがんばろう」の2段階絶対評価が基本となっています。3年生以上は、「できた」の中でも特に高い評価のものには「よくできた」をつけ、3段階絶対評価となっています。絶対評価のため極端な話、項目によっては「よくできた」や「もう少しがんばろう」の評価の者がほとんどいないこともあり得ますので、それを踏まえてお子様とお話していただけたら幸いです。

Q 「ランランラン」(体育参観)は走る種目以外はできなかったのか。

A 本校は基本的に「(大阪府教育庁)学校園における新型コロナウイルス感染症対策マニュアル(十各増補版)」(以下「府マニュアル」と「(吹田市教育委員会)学校における新型コロナウイルス感染拡大第2波(第3波)への対応の目安について」(以下「市目安」)に準じて学校行事等を計画しています。また、今年度からは学習指導要領の改訂により、授業時数を増やさざるを得なくなり、授業時数の確保を優先しています。

「ランランラン」は府マニュアルにある「近距離で組み合ったり接触したりするリスクの高い運動」を避け、各学年内容を吟味しました。また、年度初めの臨時休業により、全教科の授業時数不足のため、体育においても最低限の授業時数で取り組む必要があり、「走・跳の運動(遊び)」「陸上運動」と「体づくりの運動遊び」「体づくり運動」の領域に絞った内容の体育参観としました。

Q 器楽演奏会は学年ごとであれば保護者も入れたのではないのか。

A 上記の回答にある通り、「府マニュアル」と「市目安」に準じて行事等を計画しています。

器楽演奏会は体育参観と違い室内での活動となることと、歌唱はなしにしましたがリスクの高い管楽器(リコーダーや鍵盤ハーモニカ)の演奏を対面でおこなうため、距離を十分取るには1学年のみの鑑賞でなければ難しく、保護者に鑑賞していただくよりも、子ども同士が他学年の演奏を鑑賞する学習活動を優先しました。

○この他にも今年度は特に、授業や家庭学校間の連絡、保護者説明会やアンケート等のオンライン化に関してのご要望が多く見られました。子ども一人に1台の端末が貸し出されるなど、コロナ禍をきっかけに教育現場のオンライン化が急ピッチで進んでおり、今後教育委員会と連携しながら、利活用できることは積極的に取り組んでいきたいと考えています。紙面の関係上、すべてにお答えはできませんが、ご意見は真摯に受け止め、今後の教育活動の参考にさせていただきます。

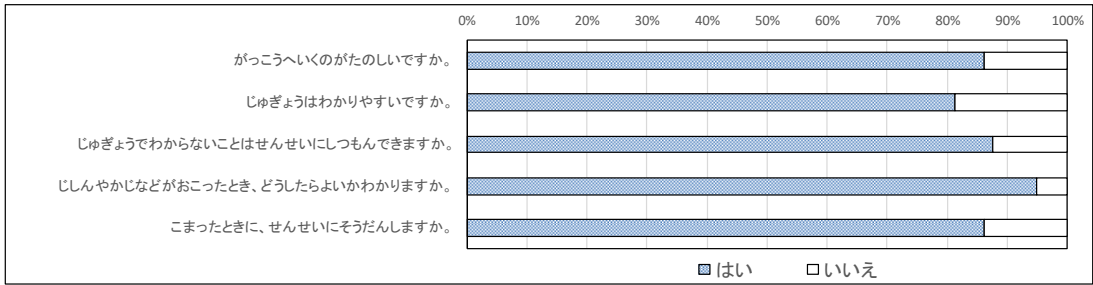


最後に、担任をはじめとする教職員に温かいご意見を多数頂戴いたしました。教職員一同、なお一層ご期待に沿えるよう、努力を継続していく所存でございます。研修の充実や普段の教育活動における切磋琢磨を大切に、学校全体として教員の指導力向上に努めてまいります。

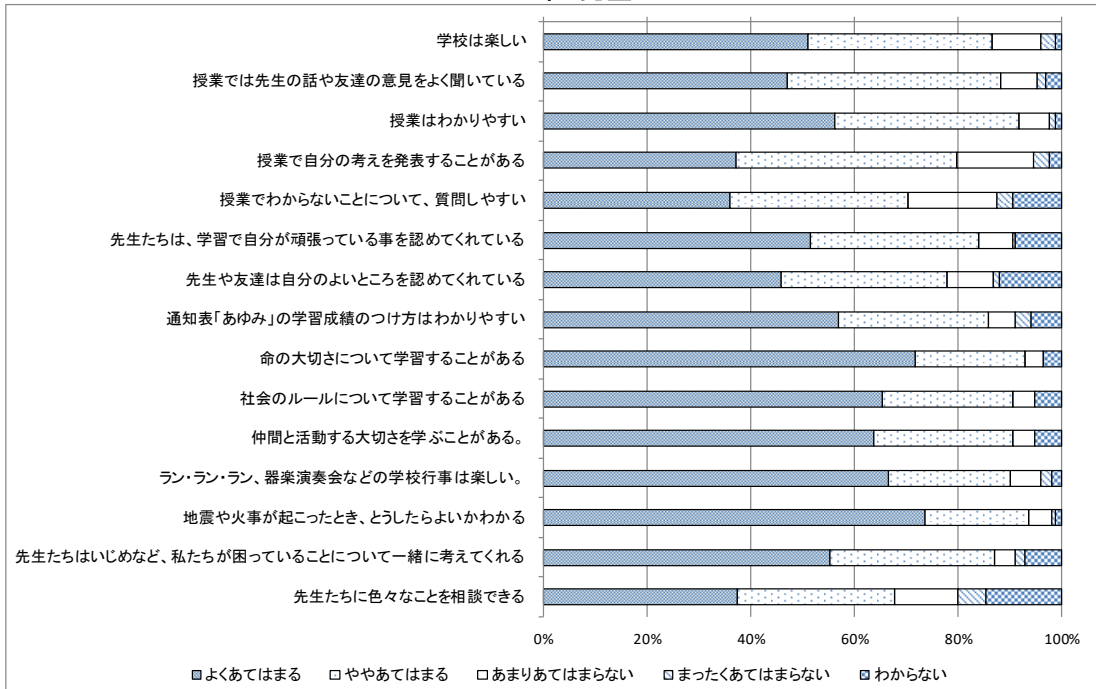
本校教育活動の推進に今後ともご理解ご協力をお願い申し上げます。

# 令和2年度 学校教育自己診断 集計グラフ (児童・保護者別)

## 1・2年 児童



## 3～6年 児童



## 保護者

